
ふあんたずー

ルトサ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ふあんたず一

【Zコード】

Z0184M

【作者名】

ルトサ

【あらすじ】

ゲームやアニメ等に出てくる物を手に入れた主人公が妄想ブログに書いているお話です。

「　　を手に入れた！」

(前書き)

思いつくままに書いているだけなので自分でも何が何だか分かりませんが（笑）楽しんでもらえれば嬉しいです。
一応ファンタジーです。

いきなりだが

「エクスカリバー」を手に入れた！！

あの聖剣、円卓の騎士を統べるアーサー王が手にした伝説の武器だ。

その伝説が眼前にある！

…どうしよう。

いや、その前にこれって本物か？

確かにそれ相応の長さと重量はあるけど剣なんて持ったの初めてだし、ネットオークションに出品されてたのが気に掛かる。

そうは言つてもエクスカリバー、手に入れない訳にはいかない。だってエクスカリバーなんだから。そういう黄、怪しい古道具屋にエクスカリバーが色違いで一本売つてたな…。

あの時はさほど氣にもとめなかつたし、金も無かつたから買わなかつた。

まあ一本ある時点でおかしいんだけどね。 ともかくエクスカリバーに関する情報だ。

幸い家にはその手の本が山ほどあるー早速探そーー…………ふう、結構あるな。

「 攻略本 武器・防具編 」「 ×パーフェクトガイド・ウェポン 」「 × ファンタジークエスト 最終攻略 最強武器はこれだ！」等々。

これだけ文献があれば充分だ。 違つ…どれもこのエクスカリバーのデザインとは程遠い。

どう違うか説明しようと困るが違うものは違うのだ！

そうこうしてゐ間にふとある本の巻末を読んで愕然としてしまつた。

嫌なものは見てしまった。いや、分かつたんだけどね。

武器「デザイン」…誰々。彼らも何かを元に「デザイン」したのだろうが、本物を持つてしまった人間から言わせるとどうにも稚拙に見えてしようがない。

何を悩んでいたんだ！間違いない。これは本物だ！強がりじゃないぞ。溢れる自信だ！

これは本物のエクスカリバー！これは本物のエクスカリバー！これは本物のエクスカリバー！

三回唱えたぞ。もう大丈夫だ。つて言つた余計な心配して疲れたから寝よ。

…つまらない夢を見た…どっちかと悪夢だ。

夢の中、部屋で目覚めると少し離れた所に壁に立て掛けられたエクスカリバーの隣りに背中を向け座っている何者かがいる。

ただならぬ気配を感じながらも、その何者かに声を掛けようとした時だ。その何者かが振り返り（険しい表情をした婆さんだった）言い放つた！

「儂はこの剣の化身、『枝久須仮婆』じゃ！！」

…その瞬間飛び起きて正解だった。すぐさま枕元のエクスカリバーを手に取るとズシリとした重みが心を落ち着かせてくれる。

あんなの化身なものか。せめてブロンドの髪をした凛々しい青年か美しい女性でなければ。そもそもあの婆さんは百パーセント日本人じゃないか！

あんなのだつたら「エクスカ・リバー」つて川が何処に…しまつた、これじゃあ夢と同じだ。反省。

それなのに、また夢を見た。見てしまつた。

それはエクスカリバーがあるうことが「氷菓エクスカリバー」として巨大なアイスキャンデーの袋に入っていたのだ！！

慌てて袋から出すと、うわっさすがに冷気が漂う。うわっ冷たくて持てない。凍りついて鞘から抜けない。ベタつく。舐めてみるとバニラだった。

少ししてやつと鞘から剣が抜けた。

…予感はしていた。抜けた時やけに軽いと思つたら剣本体は溶け？！いや木の棒が出て来た。棒の方に「ハズレ」と書いてあつた。やはり…って！本物は！？

よそう、多分当たらぬといけないんだ。
せつかく手に入れたこの剣は偽物だつたんだ…。

自分の夢ながらあまりのくだらなさにため息をついてアイスキヤンティーの袋が目に入る。

何だ、当たりはオリジナルグッズか…。

そんな中目が覚めた。

エクスカリバーを手に取り抜く。良かつた。溶けてない。

しかし、このエクスカリバーどうしよう。このまま家に置いとくのも、まあ神棚にでも…って家に神棚無いな。有つても重みで落ちるから危ないし。

そうだ！台座だ！そこにエクスカリバーを差し込んで、抜けたら賞金百万円いや十万円ぐらいか？で挑戦料千円？もつちよつと上げてもいいか？

おそらくアーサーなんて出て来ないだろ？から永遠に抜ける事も無いはずだ。世界中から挑戦者が来る…特にエジレスからは。よし！台座探そ…やっぱり止めよう。何だか面倒くさくなつた。そこらへんに突き刺しても抜けないんだつたら良いのに。

試しに…これも止めよう。下手な所に差して抜けなくなつたら大変だ。と、言う事で「エクスカリバー」は家の片隅に置いてある。

(後書き)

なんとか一話終わりました。短いのに普段文を書かないので疲れてしましました。

続くかどうか分かりませんが気の向くまま頑張ってみます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0184m/>

ふあんたずー

2010年12月18日14時42分発行